

翔

2015
December
No.235
百万石蝶談会



白山市瀬戸丸山公園でヘリグロチャバネセセリを確認

三上秀彦

石川県におけるヘリグロチャバネセセリ *Thymelicus sylvaticus* の生息地は極限されており、これまでに尾添川とその支流、犀川上流などで発生が確認されているにすぎない。生息環境はいずれも急峻な溪谷地帯の崖地で、ヨツバヒヨドリやオカトラノオなどで吸蜜する個体が、稀に記録される程度である。

本年(2015年)7月、松井正人氏より、従来とは異なった環境である白山市瀬戸で本種を確認したとの連絡があり、同時に当地での確認事例の有無に関する問い合わせがあった。じつは当地では、2011年に写真愛好家の高島金子氏によって、本種の撮影記録があり、ご本人より報告も受けていたが、詳しい産地の公表は控えたいとの意向をお聞きしていたので、伏せられた記録となったような経緯がある。高島氏自刊の『石川の蝶』に掲載された本種の写真は、この翌年に撮影されたものである。

(1) 確認地の環境について [確認地：石川県白山市瀬戸丸山公園]

発生環境は手取川と尾添川が合流する河岸段丘上に展開された自然公園で、コナラを主体とした雑木林の林縁や空間で発生している。公園内は人為的に環境が整備されており、オカトラノオで吸蜜する姿に時々出会う。

(2) 確認・採集記録一覧

2011年7月14日	1♂(撮影)	高島金子	当地における最初の確認記録
2011年7月21日	1♀(採集)	福富宏和	
2011年7月23日	1♂1♀(撮影)	三上秀彦	
2012年7月9日	1♂(撮影)	高島金子	『石川の蝶』(2014): 59.
2012年7月11日	1♂(撮影)	高島金子	『石川の蝶』(2014): 60.
2013年7月9日	1♂(採集)	三上秀彦	
2013年9月	3幼虫(確認)	三上秀彦	
2015年7月11日	6♂1♀(撮影)	松井正人	

(3) 食草に関する知見

正確な日付の記録を残していないが、2013年9月に、現地に生えるイネ科植物より、本種と思われる中齢幼虫3頭を確認した。2015年にこの植物を同定依頼したところ、ヒメノガリヤス *Calamagrostis hakonensis* と判明した。



遊歩道沿いのオカトラノオに飛来したヘリグロチャバナセセリ(2011年7月23日三上撮影)

文末となったが、確認・撮影記録をお伝えいただき、今回の発表を快諾いただいた高島金子氏(金沢市)、食草を同定いただいた石川県地域植物研究会の白井伸和氏(金沢市)、本件に関する発表を委ねられた松井正人氏(金沢市)、採集記録を提供された福富宏和氏(白山市)に深謝申し上げます。

《 参考文献 》

高島金子 (2014) 石川の蝶. 写真集. 121 p. 山越. 自刊.

《みかみ ひでひこ 〒920-0272 内灘町向陽台1-331》

高島金子氏自刊の写真集「石川の蝶」は、以下で閲覧できます

石川県ふれあい昆虫館、石川県立図書館、金沢市玉川図書館、金沢市泉野図書館、
金沢市海みらい図書館、白山市鶴来図書館

石川県のエルタテハ調査2015

松 井 正 人

石川県内では観察が難しいエルタテハだったが、2014年は6月末から10月にかけて各地で多数が観察され、樹液への飛来や低地への飛来が観察されている（平松ほか、2014）（松井、2014）（三上、2014）。またとないこの機会を捉え、翌年の2015年は、越冬明けの個体が活動を始める頃から9月にかけてエルタテハの調査を行った。

■越冬明けの調査

2014年の9月には、標高300m付近の石川県白山市瀬戸丸山公園で観察され（三上、2014）、周辺での越冬が充分予想された。越冬明けの個体は樹液に飛来することが知られており、まだ見ぬ越冬明けの個体が観察できないかと、4月12日から天気の良い日に丸山公園で調査を始めたが、12日は残雪が多く公園内は真っ白だった。4月18日と25日に樹液に飛来したのはヒオドシチョウだけだったが、26日はルリタテハも飛来し、29日になるとルリタテハだけとなり、5月2日には何も飛来せず、観察できたのはヒオドシチョウとルリタテハばかりでエルタテハは観察できなかった。

■新成虫の調査

石川県白山市一里野スキー場では、2014年6月末に新成虫が観察され（吉村、2014）、8月になると樹液から観察されている。この樹液が出ていた同じウダイカンバで7月5日に2頭のエルタテハを観察した。標高は1000m程で13時頃と14時頃に観察したが、14時頃からガスが立ちこめ気温が低くなったためか、飛来しなくなった。それまで鳴いていたエゾハルゼミも、ガスがかかりはじめると鳴かなくなった。

7月11日には、丸山公園の樹液に飛来したエルタテハ1頭を観察した。樹液は根元の方から出ており、エルタテハは飛来したあとに



ウダイカンバの樹液に飛来したエルタテハ
（一里野スキー場標高1000m付近 2015年7月5日撮影）

少し飛び上がって同じ樹の葉裏に止まった。しっかりと止まっており、カメラを5cm程に近づけても飛び立たなかったが、しつこく写真を撮り続けていると飛び立ち、ちょっと上の枝に止まり直した。その後も何度も止まる場所を上へ上へ変えたが、同じ樹に1時間程止まっていた。



コナラの樹液に飛来したあと、同じ樹の枝で休息するかのようにしっかり止まるエルタテハ
(瀬戸丸山公園 2015年7月11日撮影)

■その後の調査

一里野スキー場と丸山公園でエルタテハが観察でき、2014年のように継続して観察できるものと思っていたが、その後は7月20日、30日、8月9日、15日、9月5日と通っても観察できなかった。

《参考文献》

平松新一ほか (2014) 石川県白山市中宮でエルタテハを観察. 翔(231):2.

松井正人 (2014) 白山市一里野スキー場上部でエルタテハが樹液に飛来. 翔(231):3-4.

三上秀彦 (2014) 白山市山間部の2ヶ所でエルタテハを確認. 翔(231):5-6.

吉村匡平 (2014) 白山市一里野スキー場でエルタテハを採集. 翔(229):3.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

白山加賀禪定道でギフチョウを目撃

竹谷宏二・富沢 章

筆者らは加賀白山の登山道、加賀禪定道の標高1450m地点にてギフチョウを目撃したので報告する。

2015年5月27日 石川県白山市尾添加賀禪定道 標高1450m 1頭目撃 竹谷宏二・富沢 章

ギフチョウを目撃した場所は、一里野温泉スキー場のゴンドラリフト終点（標高1045m）上部にある加賀禪定道の登山口から続く尾根筋で、しかり場分岐（標高1549m）の手前、標高1450mの地点である。この日は晴れの良い天気です。周辺はまだタムシバやムラサキヤシオなど、早春の花々が咲き乱れていた。ギフチョウは登山道沿いに下から上がってきて目の前を横切り、傍らのムラサキヤシオで吸蜜した。あわててカメラを構えたが残念ながら逃げられてしまい、撮影はできなかった。目撃した個体は新鮮であった。

過去に一里野温泉スキー場周辺（尾添地域）で観察されたギフチョウは、

- ① 1992年4月29日 ブナオ山観察舎 1頭目撃（松井、1999）
 - ② 1995年5月7日 山毛櫓尾山（標高800m付近）1頭目撃（松井、1999）
 - ③ 2012年6月14日 白山自然保護センター中宮展示館蛇谷観察路 1頭目撃（野上、2012）
- など、ほぼ標高800m以下で記録されているが、1400mを越える地点での記録は初めてと思われる。

石川県におけるギフチョウの高標高地での記録としては、1988年6月19日 大長山山頂（標高1672m）付近 1頭目撃（野村、1989）があるので、今回の記録は石川県における2番目に高い標高のものと思われる。



文末ながら、石川県におけるギフチョウのデータ、文献についてご教示いただいた松井正人氏に心から厚く感謝の意を表する。

《参考文献》

松井正人(1998)チョウ目. 石川県の昆虫, pp. 345. 石川県自然保護課.

松井正人(1999)手取川水系尾添川のギフチョウ. 翔(137):2.

野上達也(2012)中宮展示館での希少野生動物 ギフチョウの確認について. 白山自然保護センター資料.

野村敬二郎(1989)大長山でギフチョウ目撃. だんだら(3):9.

《たけたに こうじ 〒924-0815 白山市三浦町44-2》

《とみさわ あきら 〒923-0911 小松市大川町3丁目71》

兼六園のフジバカマ

松 井 正 人

兼六園の角、石川県立美術館側に金沢神社が有る。神社の前には背丈が1.5~2.0m程のフジバカマが何株か有り、秋の南下移動時期に金沢市を通り過ぎるアサギマダラが観察できないかと、2014年9月下旬から10月にかけて調査に出かけた。

秋のアサギマダラは、標高の高い場所から観察され始め、季節の移ろいとともにより標高を下げ、10月の声を聞く頃は平地で観察されるようになる。遅い年では11月に入っても観察されているが、平地の観察例は極めて少ない。

■2014年9月22日

お天気も良く半袖シャツでも日当りは暑かった。アサギマダラは観察できず、ツマグロヒョウモンとミドリヒョウモンが訪花していた。

■2014年10月1日

さわやかな気持ちの良いお天気だったが、ヒョウモンチョウの仲間しか観察できなかった。

■2014年10月17日

長袖シャツが心地良いお天気に足を運ぶと、フジバカマは刈り払われて無くなっていた。花が終わると、刈られてしまうようだ。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県でシンジュから外来種2種を観察

松井 正人

石川県の海岸近くにはシンジュ（ニワウルシ）が多く、大木も見られ群生している場所もある。このシンジュを食樹とする外来種のシンジュキノカワガが、北海道で大発生しているとの情報に、県内数カ所を調査したところ、羽化脱出後の繭多数とともに脱出前の繭を観察した。また、この調査中に、シンジュに寄生し小松市で侵入定着が確認されているシタバニハゴロモを金沢市で観察した。

■シンジュキノカワガ

中国から飛来する美しい外来種で、二次発生するが越冬はできない。北海道で大発生との情報（北海道新聞、2015）に調査したところ、羽化脱出後の繭（空繭）が多数見付き、脱出前の繭も見つかった。

調査時は成木に葉は無かったが、シンジュ独特の太い枝先を頼りに探すと、遠くからでも簡単に見付かった。成木からは羽化脱出後の繭ばかりが見つかったが、成木の周辺には葉を残した幼木があり、羽化脱出前の繭が見つかった。幼木には、成木よりも長く葉が残るようで、蛹化が遅れた幼虫が集まったと思われる。幼木の高さは1～2mほどで幹は親指程度、繭は幹と同じくらいの幅で上下に長く、幹をたたいたり繭をなでるとシャカシャカとマラカスのような音をたてた。

シンジュキノカワガは、金沢市から珠洲市にかけての広い範囲で発生しており、北海道の大発生も考えると、日本各地に広範囲に飛来していたと思われる。



図1. 2015年11月1日に羽咋市芝垣で蛹を採集し
11月3日に羽化したシンジュキノカワガ



図2. シンジュキノカワガの蛹

2015年10月31日	石川県金沢市大野	空繭 2 個目撃	松井正人
2015年10月31日	石川県金沢市粟崎	1 蛹採集空繭多数目撃	松井正人
2015年11月 1日	石川県羽咋市西釜屋	空繭多数目撃	松井正人
2015年11月 1日	石川県羽咋市芝垣	6 蛹採集空繭多数目撃	松井正人
2015年11月 1日	石川県志賀町里本江	6 蛹目撃空繭多数目撃	松井正人
2015年11月 3日	石川県珠洲市三崎町高波	空繭 2 個目撃	松井正人
2015年11月 3日	石川県珠洲市三崎町引砂	9 蛹目撃空繭 4 個目撃	松井正人



図3. 成木の近くで見付けた高さ1～2m程の幼木。中にはまだ葉をつけたものもあり、成木より遅くまで葉が残るようで、写真に写った中の3本から羽化脱出前の6繭を見つけた。

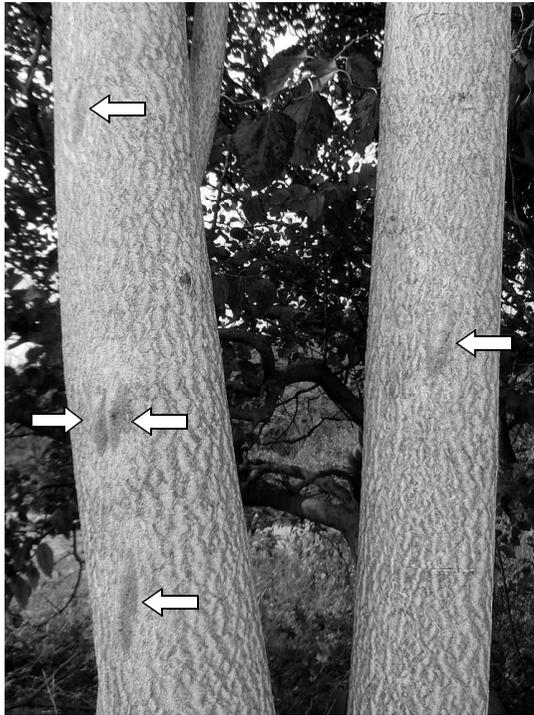


図4. 羽化脱出後の空繭が付いた成木。上の繭の
高さは地面から1m程で、低い位置に多い。



図5. シンジキノカワガの観察地



図6. 親指程の太さの幹に張り付いた繭。触ると
シャカシャカと音を出した。



図7. 繭の一部をはがした中の蛹の様子。繭は
簡単に破れる。

■シタベニハゴロモ

2009年に日本で初めて石川県小松市で定着が確認され（富沢ほか、2010）、2013年に北は石川県能美市から南は福井県あわら市にかけて、成虫や卵塊が確認されている（富沢、2013）、（梅村ほか、2013）。今回の観察地は海岸線に沿って更に北へ20km程の所で、200m程離れた2箇所成虫を観察し、1箇所では卵塊も観察した。

2015年10月31日 石川県金沢市大野 3頭1卵塊目撃 松井正人



図8. 金沢市大野で観察したシタベニハゴロモ
(2015年10月31日撮影)



図9. 2頭の成虫を観察した近くのシンジュに
産み付けられていた卵塊

《 参考文献 》

- 北海道新聞 (2015) 美しいシンジュキノカワガ 北海道南部で多数確認 低気圧で飛来し産卵? . <http://dd.hokkaido-np.co.jp/news/science/science/1-0191289.html>
- 富沢 章・林 和美・石川卓弥・福富宏和・大宮正太郎・三上秀彦 (2010) 日本におけるシタベニハゴロモの発生と分布. とっくりばち (78) : 1-6.
- 富沢 章 (2013) 分布拡大するシタベニハゴロモ. とっくりばち (81) : 1-2.
- 梅村信哉・伊藤勝幸・井上美代子・源野みね子・桜井知栄子 (2013) あわら市吉崎におけるシタベニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White) の初記録. 福井市自然史博物館研究報告 (60) : 67-68.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

金沢大学近辺でシンジュサン二頭を観察

近 藤 薫 平

金沢市角間町にある金沢大学近辺でシンジュサンを二頭観察したので報告する。6月上旬、大学校内を移動していたとき、羽を広げて葉に止まっていたシンジュサンが飛び立ち、飛翔するところを目撃した。

また、私の同期生である吉岡拓也氏が大学付近で大きい蛾の写真を撮ったと言って見せてくれた写真は、シンジュサンだった。



アパートの壁面に止まるシンジュサン
(2015年5月30日 吉岡拓也氏 撮影)

以降、大学付近では注意を向けていたがシンジュサンは観察できなかった。しかし、金沢大学付近でシンジュサンが発生している可能性があると思われる。

報告にあたり、シンジュサンの報告を筆者に託された吉岡拓也氏にお礼申し上げる。

シンジュサン	2015年5月30日	石川県金沢市若松町	1頭	吉岡拓也
シンジュサン	2015年6月上旬	石川県金沢市角間町	1頭	近藤薫平

《こんどう くんぺい 〒920-0941 金沢市旭町1-1-38》

表紙のむし - ヒメカマキリ -

こんなにキュートなカマキリが居るだろうか。お天気に恵まれた一日、ヒメカマキリに囲まれて撮影を楽しんだ。どの方向から撮ればかわいさが写し込めるか、カメラの位置をいろいろ試していると、ポーズを取るかのような仕草をする。中には「私の方がかわいいでしょ」と言わんばかりにポーズを決めてくるのもいる。「いいねえ、いいよいいよ」等と声を掛けていた私は、傍目にはどう映っていただろうか。 松井 正人

金沢市泉野でスジアカクマゼミの声を聞く

松井 正 人

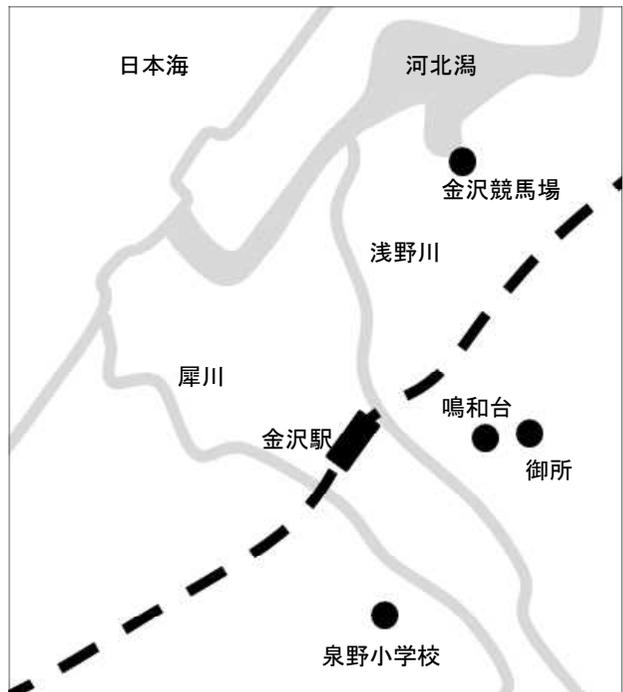
2015年8月3日、金沢市緑が丘の泉野小学校でスジアカクマゼミの鳴き声を、2時間30分ほど観察したので報告する。

2015年8月3日 石川県金沢市緑が丘泉野小学校 1♂声 松井正人

スジアカクマゼミは、ヒマラヤスギやクロマツ、アカマツなど何種類かの木が植えられた植樹帯に有るアカマツの地上8m程の先端近くで鳴いていた。その姿は確認できなかったが、観察した午前9時から11時30分にかけて、一時的に鳴き止む事はあったが、同じ場所で鳴いていた。午後からは、鳴き声は聞かれず、翌4日も鳴き声を聞くことは無かった。

スジアカクマゼミは、2001年に金沢市八田の金沢競馬場で日本で始めて発見され(徳本ほか、2002)、現在に至っても金沢市以外では見つかっていない。

発見から14年経ち、金沢競馬場周辺では隣接地に新しい観察地が見付かるなど広がりを見せている。更には2009年に御所(松井、2010)、2014年に鳴和台(富沢、2014)で鳴き声が観察されているが、今回の観察地は、いずれの場所からも離れている。スジアカクマゼミが、今後爆発的に増えるのかどうか、10年後20年後に経過をたどれるよう、鳴声等多くの記録を残す必要がある。



スジアカクマゼミの観察地

《 参考文献 》

- 松井正人 (2010) 金沢市御所でスジアカクマゼミの声を聞く. 翔(205):12.
 徳本 洋ほか (2002) 日本で発見されたスジアカクマゼミ. CICADA 16(4):57-66.
 富沢 章 (2014) 金沢市鳴和台でスジアカクマゼミが鳴く. とっくりばち(82):18.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県でアカエゾゼミの成虫採集を試みる

松井 正人

アカエゾゼミは、石川県ではほとんど観察されないゼミだったが、ICレコーダーとパソコンを使った音声分析によってエゾゼミ類の声が区別できるようになって（松井、2010b）からは、石川県各地に生息していることが分かってきた（松井、2012）。その中には鳴き移り行動が頻繁に観察できるほど生息密度が高い場所も見付かっているが、アカエゾゼミは木の高い場所や人が近づけない場所など、採集ネットが届かない所に止まるため成虫の採集は難しく、これまでに2♂2♀が採集されているに過ぎない（松井、2014）。

一方、アカエゾゼミには、年によって発生数が大きく異なる周期性があり、2015年は4年に1度の発生数が多い年に当たる（松井、2010a）ことから、生息密度が高いと思われる場所で成虫採集を試みた。

■調査地と調査日

調査は、石川県で最もアカエゾゼミの生息密度が高いと思われる石川県白山市白峰西山の標高950m付近で行った。ここは、標高1050mの尾根から100mほど下がったブナ、ミズナラ林で周囲にはブナが多く、2本の谷川が流れている。幅の広い舗装道路が通じており、アクセスが容易で調査も安全に行う事ができた。

採集調査は、2015年8月1日、8月2日、8月9日、8月10日、8月18日、8月19日、8月29日、9月4日、9月5日に行い、8月9日、8月18日、8月29日、9月4日にはライトトラップを行った。



図1. 調査地の位置



図2. 調査地の周辺



図3. 調査地



図4. この場所で1♂1♀を拾い「セミ拾い」に気が付いた。ライトトラップはこの路上に設置した。

■調査結果

調査は概ね天気に恵まれ、アカエゾゼミを7♂4♀採集することができた。当初計画では、樹上に止まるもののネット採集と、ライトトラップにおびき寄せての採集を考えていたが、結果は第3の採集法によって最も多く採集できた。第3の採集法など詳細については、日を追って紹介する。

□8月1日 晴

8時に調査地に着くと多数が鳴き、鳴き移りは始まっていた。コースが有るようで、同じような場所に♂が飛んで来て葉にぶら下がるようにして止まり、10~20秒ほど鳴いて飛び去る。ネットが届きそうな場所が見付き採集チャンスは4回あったが、いずれもあと少しのところまでネットが届かなかったり、ネットを振る前に飛び去ったりと採集できなかった。9時を過ぎると飛んでこなくなった。

□8月2日 晴

7時に着くと既に激しく鳴き、鳴き移りは前日と同じ場所で観察できた。前日より1m長い竿を準備したが、いずれもあと少しのところまでネットが届かない。気温が高すぎるのか、8時30分頃から日当たりの声がだんだん少なくなり、8時45分頃になると日陰からしか声がしなくなった。9時30分にはほとんど鳴き止みポツリポツリと単発の音が聞かれる程度になった。そんな中、道路上に大きく張り出したブナの枝から、1頭のセミがヒラヒラと落ちて舗装路面に転がった。慌てて拾い上げるとアカエゾゼミの♀で、時間は11時10分だった。



図5. ブナの枝先に止まるアカエゾゼミ、1回で止まらず、場所を変えて何度もトライする事がある。



図6. 目の前に落ちてきたアカエゾゼミの♀

□8月9日 晴

ライトトラップを目的に15時に到着すると、8月2日に1♀が落ちてきた場所で車に惹かれた1♂を見つけた。この発見で、路上に落ちたものを採集する「セミ拾い」の有効性によりやく気づき、その後は定期的に周辺の道路上に落ちていないか捜す「セミ拾い」を始めた。

ライトトラップは、この1♂1♀を拾った舗装道路に設置し、ライトはブナの木にも光が届くようにスクリーンの山側にセットした。この場所は道路幅が広く、道路中央にスクリーンをセットしても、スクリーン背面（ライトの反対側）を乗用車が走り抜けるには十分なスペースが残った。19時50分、気が付くとスクリーン前面の路上にアカエゾゼミの♀がいた。気温は21.5度。24時まで点灯していたが、その後に飛来したセミは、ヒグラシが2♀だけだった。

□8月10日 晴

調査地で車中泊。5時50分、朝日があたたつた場所からアカエゾゼミが鳴き始めた。気温は18.5度。6時45分、ライトトラップの光が届いていた道路際の草むらでアカエゾゼミが鳴き出し採集する。6時55分、鳴き移りが始まる。7時00分、ライトトラップの光が全く届いていなかった場所でアカエゾゼミ1♂を拾う。前日の24時頃に「セミ拾い」をしているので、それ以後に落下したと思われる。潰れてはいなかったが、アリが群がっていた。この場所も、ブナの枝が道路上に大きく張り出している。



図7. 車に惹かれ無惨な姿のアカエゾゼミ♂



図8. 6時45分に草むらの中で鳴き出したアカエゾゼミ♂

その後はネットを持って待ち構えるが、届く範囲には止まらない。9時30分、同じ場所で鳴き続ける♂を見つけるが、もう少しのところでネットが届かない。8mの竿を木々の枝にもたせかけ、1m程押し上げると、運良くネットに入った。その後も運は続き、道路脇のコンクリート水路の縁からのぞいているアカエゾゼミの顔が見えた。急いで拾うと大きくて驚いたが、良く見れば交尾個体で2頭同時に採集できた。9時55分に採集し、交尾したままネットの中に入れておくと、10時28分に解けた。

□8月18日 くもり

18時30分に到着し、8月9日と同じ場所にライトトラップを設置する。今日は何処にもアカエゾゼミは落ちていない。19時00分にライトを点灯するが気温は19.5度と低い。22時00分、気温17.5度、トラップからは10m程離れ、光が届くか届かないかの薄暗い路上でアカエゾゼミ1♂を見つける。23時50分、気温17.0度、スクリーン前面に飛来したアカエゾゼミを目撃する。その様子は飛来と言うよりも、8月2日の♀同様落ちてきたように見えた。この個体はアドニス型の♀。その後は、24時00分にヒグラシ1♀が飛来しただけだった。

□8月19日 くもり 時々 晴

調査地で車中泊。起床後何度か「セミ拾い」をするが、アカエゾゼミは落ちていない。曇っていて気温が低いためか、アカエゾゼミはなかなか鳴かず、7時50分頃から日が当たる場所で鳴き出したが、陰ると鳴き止んだ。8時20分、鳴き移り



図9. ネットを放り上げ運良く入ったアカエゾゼミ♂



図10. ライトトラップに飛来した(落ちてきた)アドニス型のアカエゾゼミ♀

個体が良く観察できる樹の根元で♂が鳴き出し採集する。10時00分、鳴き移りする1♂を観察したが、今日は鳴き移りがほとんど観察できず、同じ場所で鳴いている。11時00分、気温23.0度、日が当たると鳴き出すが、日が陰ると鳴き止む。

□ 8月29日 くもり 後雨

17時00分に到着し、8月9日と同じ場所にライトトラップを設置する。「セミ拾い」するが、アカエゾゼミは落ちていない。18時40分、気温は18.0度と低い中で点灯する。20時00分、気温18.0度、小雨が降り出す。22時00分、気温18.0度、雨が強くなり調査終了。セミの飛来は無く、「セミ拾い」の成果も無かった。

□ 9月4日 晴

17時40分に到着し、8月9日と同じ場所にライトトラップを設置する。「セミ拾い」をするがアカエゾゼミは見付からなかった。18時40分、ライトを灯すが気温は17.0度と前回の8月29日より更に低い。24時00分、気温14.0度、セミの飛来は無く調査終了。

□ 9月5日 晴

調査地で車中泊。気温が低いいためかアカエゾゼミはなかなか鳴き出さない。8時50分、気温が19.0度になり、ようやく鳴き出すが単発ですぐに鳴き止む。何度か「セミ拾い」をするがアカエゾゼミは見付からなかった。

表1. 観察日と採集結果

日付	観察時間	樹上採集	ライトトラップ ^o	セミ拾い	備考
8月1日	8:00~9:30		—	—	8:00鳴いていた
8月2日	7:00~13:00		—	11:10 1♀	7:00鳴いていた
8月9日	15:00~24:00	—	19:50 1♀	15:10 1♂	「セミ拾い」始める
8月10日	5:00~10:00	9:30 1♂	—	6:45 1♂ 7:00 1♂ 9:55 1♂1♀	5:50鳴き出す 6:55鳴き移り始まる 1♂1♀は交尾個体
8月18日	18:30~24:00	—	22:30 1♂ 23:50 1♀		1♀はアドニス型
8月19日	5:00~11:00		—	8:20 1♂	7:50鳴き出す
8月29日	17:00~22:00	—			22:00大雨調査終了
9月4日	17:40~24:00	—			気温14~16度
9月5日	5:30~11:00		—		8:50鳴き出す

注：「—」はその調査を行っていないことを示す



図11. 調査地詳細図

■まとめ

- 1 2015年8月1日から9月5日にかけて白山市白峰西山で日中の採集を5回行い、アカエゾゼミを樹上から1♂、落ちていたものを拾った「セミ拾い」で5♂2♀を採集した。また、ライトトラップは4回行い、1♂2♀を採集した。
- 2 ライトトラップで1♂2♀を採集したが、トラップを設置した場所は、日中に1♂1♀が落ちていた場所であり、飛来した1♀は落ちてきたように見えた。8月10日早朝には、ライトトラップの影響が全くない場所で1♂を拾い、夜間も落下することが分かった。これらから、ライトトラップへの飛来は誘因されたのでは無く、たまたまライトトラップの場所に落ちてきた可能性が高い。
- 3 樹上に止まったものとライトに誘因したものを採集する計画だったが、樹上の個体は採集ネットが届かない所に止まり採集できたのは1♂のみで、ライトに飛来した1♂2♀は、前述から夜間の「セミ拾い」の可能性があり、最も有効な採集法は思いがけなくも発見した「セミ拾い」だった。発生数の多い年は、樹から落ちる個体を「拾う」採集法が有効と思われる。
- 4 これまでに採集されていた4頭は、基本型2頭、アドニス型1頭、コンコロール型1頭と異常型の割合が5割と高く、石川県の特徴かと思われていたが、今回の採集では基本型10頭、アドニス型1頭で、異常型の割合は高くないことが分かった。

表2. 基本型と異常型の採集数

	♂	♀	計
基本型	8	4	12
アドニス型		2	2
コンコロール型		1	1
計	8	7	15

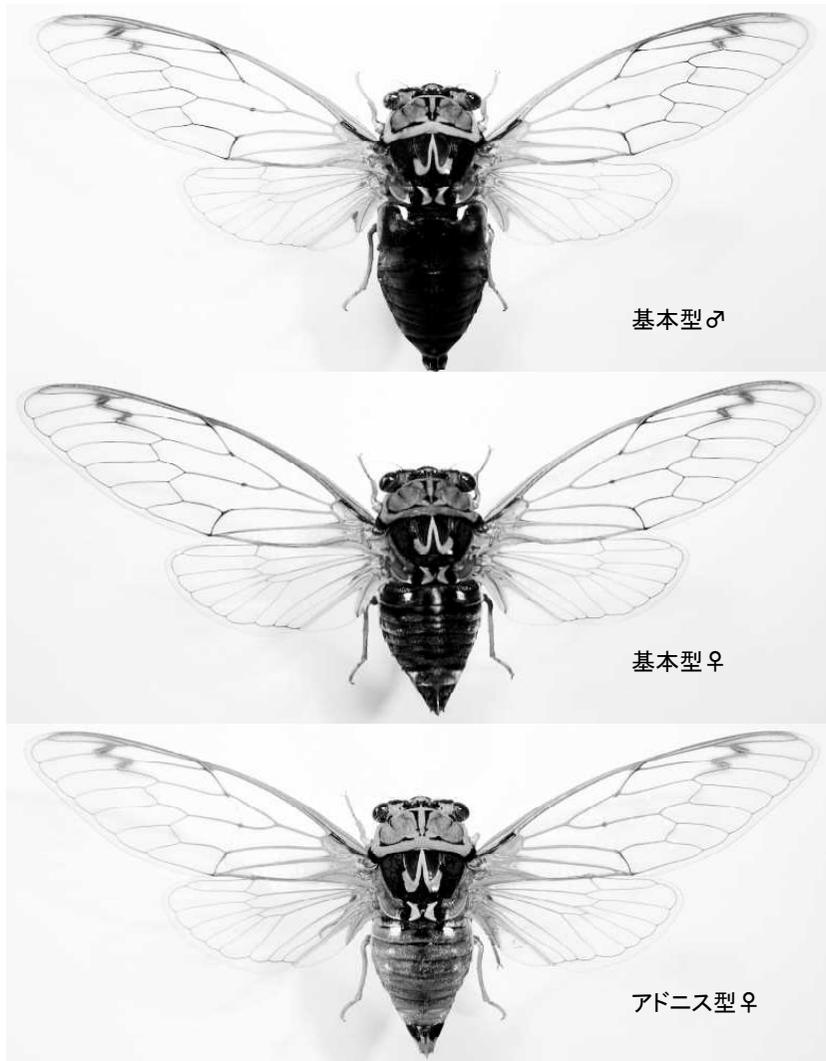


図12. アカエゾゼミの基本型とアドニス型

《 参考文献 》

- 松井正人 (2010a) アカエゾゼミ調査とセミの隔年発生. 翔 (204) : 4.
 松井正人 (2010b) 鳴き声分析によるエゾゼミ類の調査. 翔 (205) : 1-2.
 松井正人 (2012) 石川県各地でアカエゾゼミを観察. 翔 (216) : 6-10.
 松井正人 (2014) アカエゾゼミのアドニス型を採集. 翔 (226) 3.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■エダナナフシが三つも

県内では少ないエダナナフシが、上寺津発電所付近で見つかっている。毎年モドキがたくさん観察されている場所で、この日は成虫に脱皮中のモドキと一緒にまだ小さなエダの幼虫が見つかった。エダは、モドキより成長が遅いようだ。

■灯火採集で何が採れた

8月1日、満月を押して虫の会の灯火採集が、百合谷林道終点で行われた。近くにヒメコマツ林があるのでヒゲナガ君は4つほど、子供が喜ぶガタはミヤマがそこそこ、ちっちゃなアリヅカムシもいくつか来たらしい。

■アリヅカムシ

名前からアリの巣の中に棲んでいると思ったら、アリの巣にも居るが、ほとんどは枯葉の中や朽木の中に棲んでるとか。秋の森で落ち葉をどかすと、アリヅカムシの中ではでっかいやつが、見付かるらしい。

■エルタテハは居なくなった

去年はあちこちでいっぱい見付かったエル、今年も7月に入ると樹液に飛来し、これからと期待していた。ところが、その後はパタリと見付からなくなった。

■シンジュサンを捕まえない

ヨナクニサン似で褐色に黄色い三日月模様と南国情緒が漂い、しかも大型とくれば、一度は生虫を見たくなる。蛹で越冬し、県内では6～8月に観察されているが数は少ない。後翅を1枚拾っただけでも、虜になってしまった。

■DNA用サンプルはエタノールで保存

能登のクロコムラはどこと近縁？ 金沢のスジアカはどこから来たの？ 等々は、DNAを調べれば分かるらしく、生きてる内に足を1本保存して欲しいと頼まれ、アルコール入りのサンプル管を渡される。中身は高価なエタノールなのでメタノールでも良いのじゃないのと言ったら、「ダメ」と即答されてしまった。メタは、DNAを壊すらしい。

■泉野のスジアカクマゼミ

暑い日、人が訪ねてきて戸が開くと、聞き慣れた声が響いてきた。まさかのスジアカが泉野で鳴いていた。この日一日同じ場所で鳴いていたが、翌日からは聞こえなくなった。どこから紛れ込んだのだろうか。

■アカエゾゼミは朝日と共に

白山市最大のアカエゾポイント西山に8時に着くと、既にやかましく鳴いている。さればと翌日は7時に訪れると、もう鳴いていた。1週間後は前日から待機していると、朝日が当たった場所から次々と鳴き出した。

■セミ飼ってるんですか

アカエゾをいくつも採集し、色を残す殺虫法を検討していると、近所の奥さんから「セミ飼ってるんですか」と聞かれた。「なぜ知ってるの？」と不安が頭をよぎる。「夜明けから、毎日すごい、近所で評判」と続き、庭のアブラゼミの事かと安堵したが、不安がよぎった瞬間を見抜かれたかもしれない。

■蜜中毒

ムラサキシジミの幼虫は甘い蜜を出し、アリは蜜をもらう代わりに幼虫を天敵から守り、両者は共生関係にあると思われていた。ところがこの蜜にはアリのコントロールする物質が含まれており、幼虫はアリの巣に戻さず護衛するように操ってることが分かってきた。

■金沢犀奥尾根歩き

順尾山（ずんのおやま）から徒歩2時間で大倉山に着く。順尾山にはエゾゼミしかないが、大倉山ではアカエゾが鳴いていた。高低差の少ない尾根道は歩き易く、大門山まで行きたいところだが、今は赤堂山（あかんどうやま）までしか行けない。

■樹上のアカエゾ、路上のアカエゾ

白山市西山には、幅の広い舗装道路があり、道路沿いのブナの木ではアカエゾが鳴いているが、高くしてネットは届かない。ところが、張り出した枝から路上に落ちるドジなアカエゾも居るようで、今年の成果は、樹上1、路上10だった。

■海岸アサギの観察速報

初夏の海岸で観察されたアサギマダラの記録がようやくまとまり、参加者に配られた。石川県では5月17日から観察され、奥尻島では8月3日まで観察された。マーク数は832頭で再観察は90頭だった。

■セミにうつつをぬかす

猛暑の8月も忙しく飛び回っていた松井氏だが、エルヤムモン、ゴマ、シルビアなどは眼中に無かったようで、「灯火で採れた」、「アドニスだ」などから察すると、アカエゾゼミに狂っていたらしい。4年に一度の発作で終わってくれば良いのだが。

■特別展示「海を渡るチョウ」

アサギマダラの魅力を広めようと、中村明男氏率いるアサギファンクラブ白山は、ふれあい昆虫館と連携し、鶴来図書館で9月12日からマーキング活動の特別展示を開催している。

■追っかけ

好きな芸能人の行く先をどこまでも追いかける人が有名だが、渡りをするアサギと一緒に移動しながらマーキングし、できれば自分のマークアサギを見つけたいと願っている人もいる。熱狂的な追っかけは、渡りをするアサギと一緒に日本列島を北上し、そして南下する。

■林内に咲くヒヨドリソウ

9月のマーキングシーズンに入ったが、宝達山ではアサギマダラが目につかず、去年に続いて今年もかと落ち込んでいた。あまりの少なさに探し回ると、中腹の林の中にヒヨドリソウが咲いている。林には道があり先に進むと、どこまでもヒヨドリソウが咲き、アサギがいくつも飛び出した。

■宝達山中腹はアサギ天国

ヒヨドリソウが咲いていた林は、2年前に手入れされたスギ林で、林が明るくなって咲き出したらしい。こんな林が中腹に広がっているとしたら、頂上付近にアサギが少なくなったのもうなづける。

■HPの運用とアドレス変更

蝶談会のHPは、開設時から運用、費用など全てを北川氏のご厚意にすぎり、氏のおかげを持ってセンスの良いHPの運用が維持されている。今回、長らく使っていたアドレスが変わったので、忘れないうちに再登録をお願いしたい。

■「白山」の再観察が目白押し

白山市瀬戸周辺にいくつも作られたフジバカマ園で、マークを付けたアサギがいくつも見付かり賑わっている。白山マークも各地で見付かり始め、アサギの移動情報ネットをのぞくと、「白山で見付かった」「白山が見付かった」と「白山」があふれかえっていた。

■奥能登でセアカゴケグモ

10月9日、県内2頭目が能登町で見付かった。昨年は金沢市でも見付かっているもので、探せば県内の広い範囲から見付かると思われる。誰か、探して見ませんか。

■ダブルネットでてんやわんや

アサギマダラの移動情報を交換するネットワークは、この時期になると再確認の問い合わせや回答などで賑やかになる。今年は「白山」ものが多く、中村氏は対応に大わらわで、日中はネットを持って飛び回り、夜は情報発信で酒も飲んでいられない。

■花に紛れて獲物を待つ

秋はカマキリの季節。オオカマやコカマ、ハラビロなどは簡単に見つかるが、ヒメカマはなかなか見つからない。この時期、何処へ行ってもセイタカアワダチソウが咲いており、虫が集まる花はカマキリの絶好の獵場。この花を丁寧に見ていくと、いくつもヒメカマが見つかった。

■シンジュキノカワガ

中国から飛来する美しい迷蛾で、二次発生するが越冬できない。今年は北海道で大発生してるので、こっちでも蛹ならまだ見付かるかも知れない。海岸近くの林には食樹のシンジュが多く、繭は触るとマラカスのような音を出す。

■金沢にシタベニハゴロモ

ついに金沢でも見付かってしまった。2009年に小松で定着が確認されて以来、能美市や加賀市、あわら市と広がりを見せている外来種。ハゴロモにしては大きく、しかも派手な色なので、居れば気が付く。

■ここまで来たアサギの標識調査

標識して放蝶し、どこかで再び見付かるのを待つ標識調査。かつては、待てど暮らせど見付からなかったが、最近は50頭に1頭程度が再観察されるほどになり、今年は更に進んで、再観察、再放蝶されたものが再び見付かる再々観察が増え、「ほうだつ」マークでも4頭が見付かっている。

■ハエの採り置き

ヒメカマキリのエサ用にとハエを採り、1匹与えると結構時間をかけて食べる。うっかり次のハエをやり忘れて翌日になると、あんなに元気だったハエは死んでいた。ハエ飼うのって難しいみたい？

■情が移って標本化できない

ナナフシ好きの松井氏、今年はエダナナフシを飼っている。採集時は幼虫だったので成虫になるまで飼育することにしたいが、まだ飼ってるらしい。とっくに成虫になっているが殺すに忍びず、あの長い立派な触覚が切れても飼い続けている。どっさり有る卵をお嫁に出したいらしい。

■ 例 会 の 記 録 ■

8月6日(木)金沢市民芸術村第1会議室にて、午後8時から開催。

出席者が少ない中、松井氏のアカエゾゼミ講座が始まった。アカエゾは幹に止まらず葉に止まるが、止まるのが下手。何度かチャレンジして重いのが枝先に止まるとブ

ランと揺れるので場所は分かるが、高くネットは届かない。採集をあきらめた頃、ヒラヒラっと赤いものが落ちてきて、慌てて拾うとアカエゾだった。

主な話題は、上寺津でヒメシジミ、僕のヒメシジミコレクション、若松のシンジュサン、8月はアカエゾの季節、泉野で鳴いたスジアカクマゼミ、自然観察員の嘆き「虫の名前も聞いてよ」、ダビドビよりも天女の響き、ウズベキスタンに1ヶ月、愛媛の合宿に参加、などなど。

参加は、福富、石川、近藤、細沼、松井、吉村の6人。

■ 例会の記録 ■

10月2日(金) 金沢市民芸術村第1会議室にて、午後8時から開催。

今日は、細沼氏がヒサマツ母蝶の採集について聞かせてくれた。母蝶が1日に1~2回程止まる枝があり、長竿を伸ばして椅子に腰掛け、日がな一日ひたすら待つ。いつ飛んでくるか分からないので、目が離せない。来る日も有れば、来ない日も有り、年寄りの暇つぶしのようなものとか。

その他の話題は、ホシチャとシルビアが羽化中、タイワンモンシロの完全雌雄型、カラスシジミの産卵を見た、落葉めくりは雪降る前、10月末の石垣はエパニアか、2月に1週間程西表、アカエゾは拾うもの、10月末は立科でエサケルス、などなど。

参加は、井村、細沼、浅野、松井、吉村、大宮の6人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

三上秀彦：白山市瀬戸丸山公園でヘリグロチャバネセセリを確認	1
松井正人：石川県のエルタテハ調査2015	3
竹谷宏二・富沢 章：白山加賀禅定道でギフチョウを目撃	5
松井正人：兼六園のフジバカマ	6
松井正人：石川県でシンジュから外来種2種を観察	7
近藤薫平：金沢大学近辺でシンジュサン二頭を観察	11
松井正人：金沢市泉野でスジアカクマゼミの声を聞く	12
松井正人：石川県でアカエゾゼミの成虫採集を試みる	13
編集部：会員の動き・しゃばの動き	21

翔 235号

TOBU 2015年12月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15松井方

<http://jaco.ec.t.kanazawa-u.ac.jp/100man/>
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

